



福島県 事務研会報

第 1 2 5 号

令和6年12月18日
福島県公立小中学校
事務研究会
発行人 尾又芳行
編集 情報委員会

<http://f-jimuken.kir.jp/new/> (ホームページアドレス)

- ◆ P 1 副会長あいさつ
- ◆ P 6～7 全国大会・東北大会岩手大会 報告
- ◆ P 2～5 研究大会概要・報告、スナップ写真
- ◆ P 8 県事務研専門委員会活動紹介

「次世代への継承」

福島県公立小中学校事務研究会副会長 吉田 豊



令和6年9月3日、郡山市ビッグパレットふくしまにおいて「第38回福島県公立小中学校事務研究会」が開催されました。大会直前には台風10号の影響から開催が心配されましたが、当日は天候にも恵まれ、県内外より351名の参加をいただき無事終えることができました。

今回の研究大会では、参集による実行委員会は開催せずに、ICTを活用して各部で随時情報共有をしながらスムーズな運営ができました。発表支部の運営責任者の皆様をはじめ、運営に携わった専門委員・浜通りブロック実行委員・事務局員の皆様には、心より感謝申し上げます。

さて、各支部では会員の世代交代が大きな課題ですが、本会も少子化や被災地域における統廃合の影響によって学校数及び会員数は減少しており、東日本大震災前と比べると学校数は143校、会員数は189名減少しています。また、昨今の学校事務職員の大量退職・大量採用により会員全体に占める主事の割合が、全体の一割から三割に増加しており、会員の若年化も進んでおります。

本会では、諸先輩方より引き継いできた様々な事業や課題解決方法のノウハウを継承する一方で、業務のスリム化、組織体制の強化、次世代の育成と研修の充実が喫緊の課題となっております。

その中で、私たち学校事務職員に期待されている役割として、教育目標の具現化を目指し、教職員と連携を取りながら責任を持って担当する業務を行うこと。そして、実務の中で気付いた改善点を積極的に提案することが求められています。

令和9年度より実施される第六次長期研修計画策定に向けて、現在特別委員会・プランニング委員会を中心となり検討をしているところです。会員一人一人が全国的な視野を持ちつつ、子ども達から憧れを持たれる魅力ある学校事務を創造するために、会員同士の「つながり」を深め次世代へ継承していきたいと考えております。

今後も会員皆様の御協力を、よろしくお願いたします。

第38回研究大会概要

令和6年9月3日(火)郡山市ビッグパレットふくしまにおいて、多数の御来賓の御臨席のもと第38回福島県公立小中学校事務研究大会が開催されました。開会に先立ち、過去の研究大会を振り返る記念動画が上映され、大会中は歴代大会の研究集録を会員が手に取って閲覧できるように展示ブースが設けられました。



開会式の会長あいさつでは、現在学校で推進されている学びの変革の波に対応していく必要があることや、多忙化解消・業務改善へ具体的なアクションを起こすとともに、令和の時代に即したつかさどる学校事務、教育事務への変革が不可欠であると話がありました。令和5年度東北地区公立小中学校事務職員研究協議会功労者表彰では、只見町立朝日小学校主任主査 若林和徳様、いわき市立平第三中学校主任主査 鈴木みのり様の2名が受賞されました。大会テーマ「“つなぐ学校経営事務”から子どもの学びを支援しよう～学校事務連携の展開とアクションプランによる実践～」のもと、午前は全体研修と講演、午後は4つの分科会が行われました。

(情報委員 梅津 拓人)

全体研修 「福島県公立小中学校事務職員の標準的職務及び育成指標について」 ～ 研修体系整備と職務の再編・充実 ～

研究推進者 研究推進委員会・プランニング委員会



「福島県公立小中学校事務職員の標準的職務及び資質向上に係る育成指標」の内容から研究推進委員会・プランニング委員会より「標準的職務の策定の目的」「策定の過程」「標準的職務の内容」「育成指標の内容」「今後の方向性」の大きく5つの項目に分けて報告がありました。

会員の声を聴きながら作成された標準的職務内容は、学校事務職員の職務を明確化し、より主体的・積極的に校務運営へ参画する内容となっています。さらに、主となる業務のほかに教職員と密接に連携・分担するものについても職務内容に含まれています。また、育成指標については学校事務職員の体系的な研修体制の整備を目指すとともに、職務段階や経験年数(ステージ)によって求められる姿を明確に示しています。

支部事務研や共同・連携実施での研修立案や自身のキャリアを見据えた目標設定など具体的な活用例を挙げた説明があり、今後は次期長期研修計画に中心的位置づけをすることにより研修の土台を形成し、より主体的な学びと実践につなげたいと話がありました。最後に、今回の研修が学校事務職員の未来像について考えを深める機会となることを願うと結びました。

(須賀川市立柏城小学校 熊田 聡美)

講演 「新しい時代の学校マネジメントにおける学校事務職員に求められる資質」

講師 東洋大学 文学部教育学科 准教授 葛西耕介 様



機械やA Iの発展で消えていく職業や今とは業務内容が変わっていく職業がある一方で、A I等での代替が難しい創造性や協調性が必要な業務は今後も人が担っていくこと、過去と現在の社会で求められる人材、学校像・学習観の違いについて講演をいただきました。現在行っている単純反復的な業務はA I等へ代替されていくのではないかと、これからの学校事務職員に求められる業務は、マネジメント能力・コミュニケーション能力が必要とされるものへと変わっていくというお話がありました。

続いて「チーム学校」を機能させるため従来の学校組織からどのように変化すべきか、さらに学校事務職員の仕事はどう変化し専門性を高めていくのかについて、ディスカッションを行いました。参加者からは「チームとしての視野・幅を広げるために多様な職種の視点からアイデアを出し合うことや、その環境作りが大切なのではないか」という意見が出されました。

現在、学校事務職員を含めた事務職はA Iへの代替の可能性が高い職業とされています。そのため新しい時代に合った学校マネジメントに積極的に参画する必要があります。私たちには、自らの専門性を経営・運営にシフトさせるとともに、よりクリエイティブな仕事が求められていることを再確認しました。
(本宮市立本宮第二中学校 橋本 正巳)

分科会 参加者の声

第1分科会

「プロアクティブ（先見的）学校事務職員を育てるには」

～ つなぐ・つたえる・つかさどる ～

(東西しらかわ支部)

私は、所属する支部内での人材育成に課題意識を持っていたため、研究の概要にあった「地区事務研が組織として人材育成に主眼を置いた取組」という言葉に興味をわき、この分科会に参加しました。

各研究班の研究内容が紹介された中で、プロジェクトチームが実践した学級・授業づくりセミナーでの発表については、経験年数の浅い学校事務職員が会場の参加者に向かって実演しました。プレゼン資料がしっかりとしたものであったことと、堂々とした発表の様子から、準備段階から発表までとても良い経験を積むことができた実践だと思いました。成果と課題の中でも、「経験を積み自信をつけさせることが必要」「先輩からのフォローアップが重要な役割を果たしている」とあり、人材育成に対する課題解決の参考になりました。

指導助言では、東西しらかわ事務研の課題と「教職員働き方改革アクションプラン」の目標とのつながりや各研究班へ期待することなどの話がありました。その中でも私の印象に残ったのは、「学校事務職員による学校の多忙化解消の取組が児童生徒、教員、そして学校を助け、より良い学校経営につながると認識してほしい」という言葉でした。

今回の発表を聞いて、ベテランである我々もフォローアップできるように経験を積むことが大切だと思いました。

(伊達市立霊山中学校 佐藤 美雪)



第2分科会 「TUNAGU」 ～ 両沼事務研イノベーション～ (両沼支部)



会員数の減少に直面する両沼支部における組織活性化に向けた3つの実践が発表されました。「FCSの活用」「研究成果の継承」「研究研修体制の見直し」という具体的な取組は、私にとって大きな学びとなりました。特に、「FCSの活用」においては、Google スプレッドシート等のアプリを活用することで、データの共有や共同編集が可能となり、会員間の連携を深めるための有効な手段だと感じました。私自身も、より効率的な情報共有や業務遂行を行えるようこれらを積極的に取り入れていきたいです。

また「研究成果の継承」では、学校において研究成果を継続的に活用するための体制づくりが重要であることを改めて認識しました。なかでも、事務引継ぎツールは支部内で統一された様式を活用することでスムーズな業務引継ぎにつながり、効率化が図れると思いました。

さらに「研究研修体制の見直し」では、会員が主体的に参加し、より良い組織運営を目指している姿に感銘を受け、会員の主体性によって事務研を創っていくことの大切さを実感しました。発表の最後には、他支部の取組や同世代の学校事務職員の事務研での役割、新規採用者がどのような支援を受けたのかなどのお話を聞くことができました。

同世代の学校事務職員の話からは大変刺激を受け、自分自身、もっと積極的に活動していかなければならないと強く感じました。今回の学びを職務や組織に生かしていきたいと思えます。

(いわき市立中央台北小学校 谷津田 穂波)

第3分科会 「つなぐ学校経営事務」から子どもの学びを支援しよう ～ 事務を“つかさどる”学校事務職員の実践～ (岩瀬支部)



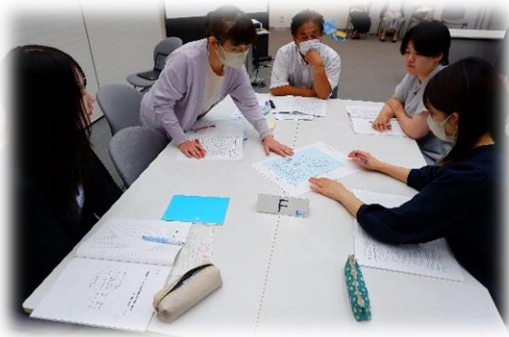
岩瀬支部の学校事務職員はかつて岩瀬教育研究協議会の学校事務部に所属していましたが、組織改編が行われ、令和4年度末をもって学校事務部の発展的解消が決定しました。研修の場が複雑化していたことや、幅広い年代層・経験値も様々であることから、研修体制が地区事務研の一本化となったことは良い点だと思いました。岩瀬支部は「つなぐ学校経営事務」から子どもの学びを支援しよう」を研究テーマにしており県事務研のテーマに準じています。研修系統表を使って過去の研修を見える化することで、研修内容が整理されるだけでなく、研修計画を作成する際の検討資料にも活用できます。また、「困りごと整理表」は学校事務職員だけでなく教員の困りごとにも収集・共有して、全員で課題解決に向けて協議する相互支援体制が確立されており、より実務的な取組を行っていました。サブテーマに掲げている「事務をつかさどる」実践を数多く見ることができて、この仕事の魅力に改めて気づきました。

それぞれの地区によって多くの課題があるなか、先輩学校事務職員は弱みを強みに変え築き上げてきた地区事務研を若い世代へとバトンをつなげています。今後も地区事務研・県事務研がますます発展していけるよう、私自身も岩瀬支部のような「楽しく取り組める実践」を意識し、事務研の活動に貢献していきたいと思えます。

(郡山市立安積第三小学校 熊田 さちえ)

第4分科会

自らの課題に取り組むための地区事務研の実践 ～ 次世代へつなぐ 南会津事務研の取組 ～ (南会津支部)



南会津事務研では、「事務研の研究＝課題解決活動」と位置付け、様々な角度から課題解決の実践を行う独自の研修計画を策定していました。しかし、当初の想いや基本理念を知らない会員が増えたことから改めて課題の洗い出しを行い、全会員で課題解決活動に当たっていました。

発表で印象に残ったことは、課題解決のために教頭会に共同研究を要請し打合せを行い、取組内容を校長会へ説明して支援を依頼したことです。教頭職と課題を共有できる

部分を見つけて理解を得ることで、自分たちが取り組んだ成果を実際の業務に生かしており素晴らしいと感じました。

後半は「1 課題解決方法の検討」、「2 次世代へつなぐ取組」についてグループ協議を行いました。1では参加者が現在抱えている課題についての解決方法を話し合いました。各グループ様々な課題が挙げられましたが、どの班も他地区の学校事務職員との話し合いを通じて課題解決に向けての糸口を見つけていたと思います。また、2では若手とベテランをつなぐための取組について話し合いました。地区ごとの共同・連携グループでの支援体制の確保が挙げられました。

最後に、須賀川市立小塩江小学校長 星徹様より指導助言をいただきました。「本音を持って声を上げる。一人一人が取り組む。みんなで関わる。」という言葉が印象に残りました。南会津事務研では今回の成果を基に新たな研修計画の策定を進めているとのことですので、今後の活躍にも注目していきたいと思ひます。
(会津若松市立永和小学校 芳賀 一輝)

研究大会の一コマ



第一回大会からの
研究集録を展示



意見を発表する参加者



全体研修会の様子



歴代研究大会の振り返り

第56回全国公立小中学校事務研究大会(本部主管) 参加報告

テーマ「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」
 -校務運営参画の道を切り拓く事務職員の学びと実践-
 令和6年8月9日(金) 埼玉会館 大ホール

全体研究会Ⅰでは全事研研究開発部より、令和3年11月期調査と標準的職務通知別表第一を基に学校事務職員の職務と役割の現状について調査結果の報告がありました。調査の回答からは、学校事務職員の専門性を十分に生かしきれていないこと、積極的な校務運営参画が不十分であることが挙げられました。現状を踏まえ、実際に校務運営に参画するために必要なことや考え方についてプレゼンテーションを受け、参加者同士の意見交換の中では、実際の実践事例について参加者が発表する場面もありました。助言者の愛知教育大学教授 風岡治様からは、学校事務職員としての5つの戦略的要素「領域を広げる」「教育と行政をつなぐ」「教育を語る」「学び続ける」「耳を傾ける」について触れ、役割を自覚し挑戦していくことが“子どもの豊かな育ち”を支援することにつながっていくと締めくくられました。

全体研究会Ⅱでは、戸田市教育委員会教育長 戸ヶ崎勤様より、埼玉県戸田市の実践事例についてお話がありました。クラウドファンディングによる資金調達を行い教育現場に還元するなど、教育長が率先して



会場の様子

取り組んできた事例について紹介されました。また、「60点でもおもしろい取組」という考えから、チャレンジを後押しする姿勢、改革を進めるための過程についてもお話をいただきました。自校、地区の課題解決に関わる学校事務職員、他職種との連携の中でまずは「その考え方はおもしろい」と互いを認め合うことが大切だと感じました。

(福島市立庭塚小学校 八代 裕太)

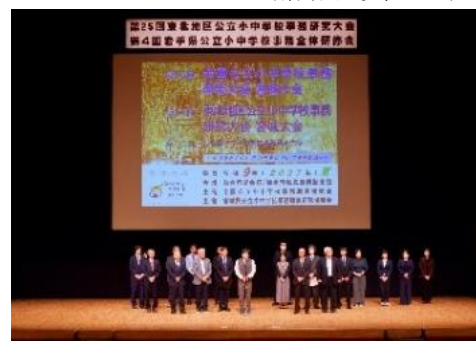
第25回東北地区公立小中学校事務研究大会岩手大会 概要

令和6年10月10日(木)～11日(金)の2日間にわたり、盛岡市民文化ホール(マリオス)、いわて県民情報交流センター(アイーナ)を会場に、第25回東北地区公立小中学校事務研究大会岩手大会並びに第4回岩手県公立小中学校事務全体研修会が開催されました。

大会1日目、午前の部では文部科学省初等中等教育局 初等中等教育企画課 竹内佳史様より「文部科学行政をめぐる最近の情勢」をテーマに、文科省での基本的な5つの方針、教師を取り巻く環境整備、GIGAスクール構想などについて説明をいただきました。午後の部では4つの分科会に分かれ、第1分科会A(福島・岩手・秋田県事務研)、第1分科会B(山形・青森・宮城県事務研)、第2分科会(東北6県の個人・グループ)、第3分科会(岩手県特別チーム)より研究発表がありました。

大会2日目は、分科会報告及び記念講演としていわて応援芸人 天津木村氏、岩手住みます芸人 アンダーエイジのお二人より岩手県の魅力についてトークショーを交えながら講演をいただきました。最後に、令和9年度全国・東北地区公立小中学校事務研究大会の開催地である宮城県の実行委員会へバトンが引き継がれ、東北大会を締めくくりました。

(情報委員 田代 茜)



次回大会への引継ぎ

第1分科会A 各県発表

福島県 専門委員会連携から創造する

福島県事務研の「かたち」

～想い×成果×連携で紡ぐ事務研活動の立体化～

発表者 福島市立清明小学校 青木 隆
 郡山市立郡山第七中学校 高萩 千明
 郡山市立喜久田小学校 松崎 愛菜
 福島市立飯野中学校 大河内 恭平
 北塩原村立裏磐梯中学校 高橋 真二
 司会者 福島市立吉井田小学校 久家 誠

第2分科会 各県発表

福島県 福島県事務研の研究・研修成果を生かした

私たちの共同・連携グループ会

～個々の力が集まって課題解決する活動の歩み～

発表者 二本松市立小浜中学校 加藤 智恵子
 二本松市立東和小学校 武藤 志歩



本県からは、県事務研専門委員会の活動内容を軸に、これまでの実践の成果や課題、これからの県事務研活動の目指すべき姿について発表しました。その中で、東北大会福島大会で培った各専門委員会の互いの専門性や知識・技術を補完し合う「専門委員会連携」を強化すれば、会員の減少や若年化という課題を抱えながらも、「体系的な研修体制」を確立できるという説明をしました。

今回の発表を受けて、私自身、専門委員会に所属する立場として改めて県事務研活動とのかかわり方を見直すきっかけとなりました。そして、会員の「想い」を汲み取り、専門委員会活動や研修会において「かたち」にするために活動する必要があること、専門委員会で得た経験や身につけたスキルを自校に還元することが県事務研の専門委員として活動する意義であると感じました。

(情報委員 植田 一輝)

個人やグループでの様々な取組について、東北各県による研究発表が行われました。

本県からは、二本松市東部地区共同・連携グループより、共同・連携実施の実践研究期から12年にわたって行われてきた実践と、そこから得た成果について発表がありました。年度ごとに替わるメンバー構成から「できる」課題を選定・実践することで、実務の効率化や支援をするだけでなく、一緒に考え経験する人材育成の在り方についての成果が挙げられました。

発表から、次世代へつなぐ人材育成や学校事務職員同士のつながりを強化し、組織的に対応する取組が意欲的に行われていることに刺激を受けました。また、ひとりの学校事務職員として広い視野を持ち、自校の課題を解決するために、常に自分をアップデートしていきたいと強く感じた分科会でした。

(情報委員 梅津 拓人)



第1分科会A 発表者



第2分科会 発表者

県事務研 各専門委員会活動紹介

【プランニング委員会】

プランニング委員会では「第六次長期研修計画」の策定に向け、特別委員会からの助言を踏まえて進めています。

また、「第六次長期研修計画」は令和9年度からの開始となりますが、研究大会の分科会支部割当を含めたスケジュールは令和6年度中に提示いたします。新たな長期研修計画のテーマを加味して、各支部の活動を推進していただけると幸いです。

令和6年9月に第38回研究大会を終え、第五次長期研修計画期間における研究大会も残すところ令和8年度のみとなります。第五次長期研修計画の集大成に向け、引き続き各委員会と連携し、有意義な研修を会員の皆様へ提供できるように進めて参ります。

【研究推進委員会】

令和6年6月5日付「福島県公立小中学校学校事務職員の標準的職務及び資質向上に係る育成指標」を発出し、第38回福島県公立小中学校学校事務研究大会全体研修において、発出した内容や今後の方向性について説明を行いました。今後は、標準的職務及び育成指標の更なる活用を目指し、より具体的な活用方法をお示しできるよう進めて参ります。

また、「共同・連携実施に関する研究」・「主任主査の上位職に関する研究」も併せて進めております。共同・連携実施に関する研究では、各共同・連携実施グループの課題や成果を把握し、今後の研修や研究につなげます。上位職に関する研究では、他県の研究大会に積極的に参加するなど理想とする上位職の姿を追求します。

【研修企画委員会】

学校事務研修会では、子どもの学びを支援するため積極的に学校経営に参画した実践事例を4名の会員に発表していただき、参加者の意識改善へつながる研修会となりました。

研究大会では、4分科会とも各支部の背景に応じた研究がなされ、人材育成や業務改善、組織改革など次世代へと「つなぐ」発表をしていただきました。大会運営においても、各専門委員会・ブロック実行委員との共通理解のもと、綿密な計画と準備、連携を図って進めることができました。

現在、令和7年度の学校事務研修会及び夏期研修会に向けた企画・運営について検討を進めているところです。会員の資質向上へつながり、実りある研修会となるよう各専門委員会と連携を図りながら準備を進めて参ります。

【情報委員会】

事務研究会報の発行と「ガジなび」の更新作業を行っています。会報では県事務研の活動報告や、東北・全国事務研に関する情報などを掲載しております。「ガジなび」の更新では、規則等の改正に際し、速やかに更新するよう活動しております。また、会員の皆様からいただくご意見も貴重な情報です。お気づきの点がありましたら、「ガジなび」のメールフォームからご意見をいただければ幸いです。

研究大会では、県事務研の歴史や先輩方の研究成果を広報する目的で研究大会記念動画の作成や、歴代研究集録展示ブースの企画運営を行いました。

来年度の夏期研修会においても各委員会と連携して運営を担います。また、会報では更に多くの会員の皆様に親しんでいただける情報発信を行って参ります。

編集後記

お忙しいなか寄稿いただきありがとうございました。

令和6年度は、県研究大会、東北大会、全国大会など皆様にお届けしたい情報が多い1年でした。

今後も会員の皆様の想い、そして県事務研の想いを会報にこめて発信していきます。 情報委員会

